ふるさと歴史散歩 255
～松前史談会レポート～

太山寺、白石の鼻を訪ねる　Ⅱ

太山寺に到着。一の門、二の門は車で通過し、駐車場で降り、二の門に戻る。二の門は仁王門で重要文化財。本堂と同じく嘉元3(1305)年の再建である。この日は残念ながら工事中で足場が組まれていた。

樹木に覆われた太山寺の参道には句碑や歌碑が多く、かつての遍路宿も昔の面影を残すなど、その風情の美しさに定評がある。しかし、急坂約500mの参道は参加者の年齢を考えると厳しいと判断し、不本意ながら三の門下の参道奥まで車で移動した。

三の門は四天王門。天和3(1683)年の再建。

門をくぐるといよいよ伽藍のエリアである。正面に国宝本堂が姿を現す。本堂は昭和31(1956)年に国宝指定。堂内から発見された墨書により嘉元3(1305)年建立と判明した。桁間7間(16.38m)、梁間9間(20.91m)で、県下最大の木造建築であり、密教本堂としても全国屈指の規模を誇る。

本尊の十一面観音菩薩像は秘仏で、50年に一度開帳される。次の開帳は2064年である。

伽藍エリアは上下二段で、下段に本堂を中心に、鐘楼堂、護摩堂、聖徳太子堂など、上段に大師堂、真野長者を祭る長者堂などが配置されている。

参加者は思い思いに参拝していた。次号に続く。

（徳香　記）

1 三の門（四天王門）

天和3(1683)年再建。入母屋造楼門。四天王像安置。この門の下の参道奥エリアには芭蕉50回忌の寛保3(1743)年に建てられた県下最古の柳壁（りゅうりょう）とされる松尾芭蕉（まつおばしょう）と芭蕉門人竹翁の句碑ほか、十数体の石仏が安置されている

※　柳壁：柳の下に建てられた芭蕉を偲ぶ句碑のこと。俳諧の世界の言葉

2 鐘楼堂

1655年再建。中に地獄極楽図がある。梵鐘は県指定文化財

8月の歴史散歩は実施しません。　問 松前史談会（鷲野）☎080-5666-5439

community learning center 公民館だより

【開館時間】 9時～22時　【休館日】 12月28日～1月4日

◆東公民館	神崎210	☎984-1159	FAX 984-1457
◆西公民館	北黒田966-2	☎984-5313	FAX 984-5313
◆北公民館	昌農内456-1	☎984-7529	FAX 984-9398

東公民館　毎月順番に活動内容をお届け！
東公民館で夏の読書タイム

㊎大人におすすめの本
㊏子どもにおすすめの本

5月に新しい本を13冊入荷し、幅広い年代の皆さんが手に取ってくれています。

子ども向けには、絵本、漫画、生き物図鑑のほか、謎解き本『解けるとこわい謎解きゲーム～止められない交換日記～』を取り揃えました。大人向けには、話題のミステリー『謎の香りはパン屋から』、お笑い芸人のエッセイ、簡単に調理できる「せいろ蒸し」のレシピ集など多彩なラインナップです。

図書室内には、ゆっくり読書を楽しめるスペースを6席用意しており、貸し出しも行っています。

開館時間は、平日の8時30分～17時15分です。夏の暑さをひと時忘れて、お気に入りの1冊を探してみませんか？お気軽にご来館ください。

Let's Enjoy Books ふるさとライブラリー

◆開館時間　9時30分～19時
◆問い合わせ　☎985-4140　FAX 985-1386
◆8月の休館　31日㊊
ホームページはこちら▶

「おばけいっぱいのおはなし会」
22日㊏11時～
文化センター2階ふれあい展示室

第3回　知的書評合戦
ビブリオバトル in 松前

それぞれのおすすめ本に対する熱い想いを語り合い、その場にいる全員の投票でチャンプ本を決定する「知的書評合戦ビブリオバトル」を今年も開催します。

今年はどんな白熱したバトルを見せてくれるのでしょうか？あなたの1票で今年のチャンプ本を決定しましょう！

◆ 日時　8月16日㊐　14時～16時
◆ 場所　文化センター2階　ふるさと学習室
※　入場無料、予約不要

◆新着本 紹介

毎週新しい本を入荷し、随時、新着本コーナーに展示しています。貸し出し状況、予約状況はお問い合わせください。

▶ホルモー燦燦
万城目学・著
KADOKAWA

「皆さんは「ホルモー」という言葉をご存じか」という書き出しから始まった、『鴨川ホルモー』『ホルモー六景』に連なる第3作にして完結編。すべてのホルモー愛読者に捧げる1冊です

▶警察へ行こう
真保裕一・著
講談社

刑事・檀原巌の新たな任務は県警マスコット「ピーヨ君」の着ぐるみ要員だった。元捜査一課の敏腕刑事が、着ぐるみの中の人として行ったイベント先で起こる事件を解決する、痛快な警察小説

▶海のほとりのプラネット
義井優・著
新潮社

希帆のもとを、会ったことのない小学生の義妹が訪れる。「家事の先生の最終試験がある」と言い家の掃除を始める彼女だが…。思いがけない出会いを通じて心の空白を埋める、連作短編集

◀消えゆく巨樹の民俗誌
谷口渡志夫・著
築地書館

日本人はなぜ巨樹を残してきたのか。それらの樹々はどのような人々に囲まれて生きてきたのだろうか？それぞれの巨樹が持つ「物語」を、その地域特有の歴史・民俗・信仰的背景から考察する

◀本ってだいたいこうなってますよね？
西岡裕二・著
技術評論社

常識のようになっているが明文化されていない知識や、特に決まり事はないけどだいたいこうだという仕様など、本の世界にはいろいろな「ひみつ」があります。本をじっくり見たくなる1冊です

◀いつものかばん
ちょまる・さく・え
文芸社

いろんなものが入った、おじいさんの「いつものかばん」。孫の誕生日会に招待されて、かばんにプレゼントを詰め込んで出かけると、竜巻が起こって空高く飛ばされ…